



公明党府議会議員団 副団長
八重樫 善幸

グリーン社会の実現で新しい成長戦略を!!

電気を使う側が再エネ(再生可能エネルギー)を選択し利用できる取り組みを!

④ エネルギーの大消費地である大阪で再エネへの転換を推進するには、新たな取り組みを打ち出すべき。

◎最近、中小企業でも、再エネ100宣言REアクションの取り組みが広がっており、需要家側が再エネを求める動きが活発化している。

◎横浜市では、青森県横浜町など12市町と連携協定を結び、東北の再生可能エネルギーを横浜市内の事業者へ供給する取り組み(横横プロジェクト)を推進している。

◎大阪府でも、需要家の再エネ利用を後押しする取り組みが必要では。

A 【長町エネルギー政策課長】

◎府域のRE100等の参加企業からは、再エネの発電設備を整備できない企業も多く、広域的に再エネを利用促進する取り組みは、調達の実績が広がるものとして、高い関心がある。

◎横横プロジェクトについては、参考になる取り組みとされており、実施に向けて効果的な方法を検討している。

◎府域の需要家と全国にある再エネの発電事業者とのマッチングにより、府域の再エネの利用促進を進めていく。



兵庫県境までの一日も早い整備を!(三国塚口線)

④ 都市計画道路「三国塚口線」は、全体区間のうち、国道176号から府道大阪池田線までの区間は現在拡幅工事の事業中。残る西側、兵庫県境までの区間については、手つかずとなっている。この未着手区間の整備は一日も早く計画を明示し着手すべき。



A 【森岡都市整備部長】

◎都市計画道路三国塚口線は、大阪府と兵庫県をつなぐ広域的な幹線道路であり、未着手区間を整備し、都市計画道路山手幹線と接続することは、阪神間の道路ネットワークの強化、防災機能の向上に寄与するものと認識。

◎現在、課題となる阪急神戸線との交差形式について、鉄道高架と道路高架の2案で、必要となる事業費や整備効果、地域周辺のまちづくりの可能性など様々な観点から、阪急電鉄や地元豊中市と議論している。引き続き、交差形式を見極め、当該区間の事業化を判断していく。

服部緑地をさらに魅力ある公園へ

④ 府営公園では、2023年度より新たな管理運営制度が導入されるが、その取組状況は?

◎現在、服部緑地では、冬場活用されないプールを「フィッシングパーク」として開設し、利用者から好評を得ている。今後、新たな管理運営制度になっても、継続すべきでは?

A 【森岡都市整備部長】

◎新たな管理運営制度の導入については、来年度の公募に向け、現在、事前事業提案募集で提案のあった企業等に対し、再度ヒアリングを行っている。ヒアリングの結果を検証し、公募時期を判断していく。

◎服部緑地における、施設新設やイベント企画など公園全体をマネジメントできるPMO型指定管理の公募は、プールを活用した釣り場などを募集要項に例示しながら、事業期間を20年程度として自由度を高めて、事業者選定時に評価することで、利用者ニーズにも対応した公園をめざしていく。



やえがし善幸 公式ホームページ

<https://www.yaegashi-y.jp>



■八重樫善幸・プロフィール

大阪府議会議員4期。
公明党大阪府議会議員団 副団長。環境農林水産常任委員会 委員。大阪府議会日口友好親善議員連盟 副会長。大阪府私立幼稚園振興議員連盟 副会長。大阪日口協会 理事。関西宮澤賢治の会 副会長。
岩手県北上市出身、県立黒沢尻北高、国立岩手大学農学部農芸化学科(生化学研究室)卒業。外資系製薬会社でMR、マーケティングに従事。